

<様式4>

畜産試験場試験・研究課題中間評価表

畜産試験場課題評価委員会

試験・研究課題名

大課題名： 豚の改良増殖

小課題名： 系統豚「フジザクラ」の組合せ検定

細目課題名：

担当者名：

評価項目	評価点	指摘事項
1 研究の進捗度	4 / 5	当初計画に沿って実施されており進捗に遅れはない
2 研究内容の妥当性	4 / 5	研究内容に大きな問題はないが、例数が少ない場合があるので、例数を確保し結果の信頼度を上げること
3 研究成果の期待度	5 / 5	生産現場では雌系の繁殖性の改善が必要なので期待度は高い
4 研究継続の必要性	5 / 5	大ヨークシャー種の組み合わせ例を増やす必要があるため、継続の必要性は高い
総合評価	4 / 5	生産現場では雌系に用いる系統豚に対する繁殖能力の向上の要望が強いので、本課題の成果への期待が高い。すでに現場に還元できるような成果も出ているので、成果のうち使えそうな部分については、フィールド試験という形も含め生産現場への還元手段を検討してはどうか。

「注」 評価点の目安

評価	高い	やや高い	普通	やや低い	低い
点数	5	4	3	2	1

試験研究機関の処置

今後例数の確保を心がけながら、生産者から要望の強い雌系の系統豚の繁殖性の改善に向けた試験を継続してまいります。

<様式6>

畜産試験場試験・研究課題事後評価表

畜産試験場課題評価委員会

試験・研究課題名：

大課題名： 豚の改良増殖

小課題名： やまなしの新銘柄豚の開発

細目課題名： ロース芯 pH 及び血中レプチン濃度の選抜形質としての可能性

評価項目	評価点	指摘事項
1 研究目標の達成度	4 / 5	当初目標のロース芯pH及び血中レプチン濃度の選抜形質としての可能性を明らかにするという点は達成されている。
2 成果の有用性 (普及性、波及性)	3 / 5	普及あるいは波及という成果ではないが、ロース芯pH及び血中レプチン濃度の選抜形質としての適性を明らかにしたことは評価できる。
3 研究の発展性	3 / 5	選抜への応用についての発展性はないが、レプチンは摂食関連ホルモンとして重要であり、測定技術を生かした別の研究での発展も期待できる。
4 研究課題選定の妥当性	5 / 5	課題設定時、レプチンは脂肪組織との関連が示唆されていたが、未解明な部分が多く、研究の対象としては妥当
総合評価	4 / 5	期待された成果ではなかったものの、当初の研究目標である選抜形質としての可能性を明らかにするという点は達成されている。また関連成果で選抜に有用な形質を見つけており評価できる。

「注」 評価点の目安

評価	高い	やや高い	普通	やや低い	低い
点数	5	4	3	2	1

試験研究機関の処置

今回の試験研究で判明した選抜に有用な形質を今後の新銘柄豚の開発に有効活用して、食味に優れた豚を開発してまいります。

<様式4>

畜産試験場試験・研究課題中間評価表

畜産試験場課題評価委員会

試験・研究課題名

大課題名： 豚の改良増殖

小課題名： やまなしの新銘柄豚の開発 新系統豚の造成

細目課題名：

担当者名：

評価項目	評価点	指摘事項
1 研究の進捗度	5 / 5	当初計画に沿って実施されており研究の進捗に遅れはない
2 研究内容の妥当性	5 / 5	今後の計画も含め、系統造成の規模、手法など研究内容には問題はない。
3 研究成果の期待度	5 / 5	安心・美味しさ、さらに県の独自色を消費者にアピールする新銘柄豚の作出が期待できる
4 研究継続の必要性	5 / 5	新銘柄豚作出に向けた新系統豚の造成の途中段階であり、研究を継続する必要がある
総合評価	5 / 5	他の機関では雄系作出にパークシャーを使っているところはなく新規性があり、安心・美味しさ、さらに県の独自色を消費者にアピールする新銘柄豚の作出が期待できる。これまでの研究内容にも問題はない。不慮の事態が起こらないよう防疫等に十分に配慮し、研究を継続してほしい。

「注」 評価点の目安

評価	高い	やや高い	普通	やや低い	低い
点数	5	4	3	2	1

試験研究機関の処置

消費者に喜ばれる県のブランド農産物を目指した新銘柄豚の開発事業、ご指摘の疾病の発生等に留意しながら当初計画に沿って今後も試験を継続してまいります。

